

# 第19回 金融教育に関する実践報告コンクール表彰式

2022年12月26日、金融広報中央委員会は「第19回 金融教育に関する実践報告コンクール」の表彰式を都内会場で開催しました。このコンクールは、毎年、全国の教育関係者の方々から金融教育に関する実践報告や研究結果、提言などを募集し、優秀な作品を表彰する催しです。本レポートでは、受賞作品の要旨および実践した金融教育のきっかけや成果、今後の抱負などをご紹介します。

※ここでご紹介する特賞・優秀賞の各受賞作品の全文は、「知るぽると」のWEBサイトでご覧いただけます。  
[https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours\\_kyoin/2022/](https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2022/)



## 開催挨拶



武井 敏一  
金融広報中央委員会  
会長

コンクールは入賞作品を広くご紹介することで、金融教育の必要性をご認識いただき、受賞作品を参考としてご活用いただくことを目的に開催しています。入賞作品から、金融教育に子どもたちの関心を高める工夫が必要であることを改めて実感した次第です。受賞者の皆さまには、熱心な取組みに感謝を申し上げるとともに、心よりお祝い申し上げます。

## ■コンクールの概要 & 受賞結果

主催	金融広報中央委員会
後援	金融庁、文部科学省、日本銀行
応募資格	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校教員、教員経験者、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官等研究者 ※共同執筆の場合、1名でも教員が含まれていれば応募可能
今回の受賞結果	特賞：1編(賞状/賞金30万円) 優秀賞：3編(賞状/賞金20万円) 奨励賞：4編(賞状/賞金5万円)

## 受賞作品

### 商業科と英語科における教科横断的な金融教育の実践 「日本と諸外国の医療保険制度の比較から」

～今、私たちが考え、実践するべきこと～

商業高校で英語科を担当する筆者が、商業科と英語科の学びを連動させた金融教育を実践。1年生の商業科目で税金や保険の基礎を習得した2年生を対象に、日本と諸外国の医療保険制度の比較をテーマにした英語科目の授業を行った。アメリカの医療保険制度に関する質問を英文で作成して、アメリカの大学生とやり取りをするなど、学んだ内容を多面的にとらえることで実生活に則した理解を深めさせた。

### 作品概要

商業高校で英語科を担当する筆者が、商業科と英語科の学びを連動させた金融教育を実践。1年生の商業科目で税金や保険の基礎を習得した2年生を対象に、日本と諸外国の医療保険制度の比較をテーマにした英語科目の授業を行った。アメリカの医療保険制度に関する質問を英文で作成して、アメリカの大学生とやり取りをするなど、学んだ内容を多面的にとらえることで実生活に則した理解を深めさせた。

「進めていきました。学んできた知識の理解を深め視野を広げた実践効果。税金や保険制度は、生徒にとってまだ難しい分野なので、興味・関心を持たせるためにアメリカの高額医療を実践授業の導入に用いました。同じ先進国でありながら、かなり異なるアメリカの医療保険制度の事例に、生徒たちは興味・関心を示しました。そして、アメリカの医療保険制度について現地の大学生に英文で質問を送り、回答を翻訳する「体験する活動」に真剣に取り組む姿を見て、英語活動としても非常に身の濃い実践になったと感じました。医療保険制度を学んだことで、健康、政治・経済、教育など幅広い分野に関心を持ち、自主的に勉

●審査員の講評  
「教科横断的な取り組みが成功している」、「アメリカ人学生へのインタビューなどに生徒に挑戦させ、英語やお金の教育だけでなく、海外の文化にも踏み込んだ深い授業になっている」と高く評価されました。



新潟県  
市川 操氏  
新潟県立三条商業高等学校教諭



## 特賞

### 商業科と英語科を横断させたきっかけ

本校は2020年度、2021年度の金融教育研究校を委嘱され、研究主任だった私は担当する英語科で金融教育を実践することになりました。私にとつ

て専門外の金融教育に取り組むことは大きな挑戦でしたが、協力してくださった方たちや、実践活動に最後までついてきてくれた生徒たちに感謝いたします。

### 金融教育の可能性

強を始めた生徒もいるなど、実践の成果が見受けられました。経験して感じた金融教育の可能性。私自身が今回の実践を経験して、どの先生、どの教科、どの方法でも金融教育は実践できると感じました。そのためにも、私たち教員が金融教育の本質や意義をしっかりと理解する必要があります。これからも金融教育のさまざまな題材を見つけ、生徒たちの生きる力を育んでいきたいと思

います。



優秀賞



小泉 未来氏  
北海道  
札幌市立大学デザイン学部4年



小林 重人氏  
北海道  
札幌市立大学デザイン学部准教授

受賞作品

行動経済学の知見を用いた金融教育の教材開発と授業提案  
～資産運用カードゲームを活用した授業計画～

作品概要

高校生対象の金融教育教材として、行動心理学の知見を基に作製したカードゲームと授業計画を紹介。ゲームは、労働や積立てを行い、家や車、株を購入しながら資産を形成していき、資産の最も多い者が勝ちとなるルール。先入観による行動特性を理解することで、経済活動で適切な行動を選択する力を養えるとしている。

**シミュレーション教材で合理的な資産形成を体験**

大学生活の中で、お金に対する意識や考え方が人によって違うことを感じ、その違いは学んだ金融教育の内容に関係していると感じ、金融教育に関心を持ちました。

2022年度から高校生の金融教育が必修化されましたが、金融知識を教えることが主となっている現状を知り、それだけで終わらない教育方法の研究に取り組みました。カードゲームの教材を作製したのは、行動経済学での見方や考え方に触れさせることで、人は、なぜ日常的に非合理的な行動をとってしまうのかを理解させれば、実際の経済活動の中での失敗を極力回避できるようにするのはないかと考えたからです。今回の報告後、高等専門学校で実践させていただき、本授業が学生の投資に対する正しい理解と判断につながったことを確認できました。

今後は、授業だけでなく家庭など他の場面でも活用できるように、ブラッシュアップしたいと考えています。

(小泉 未来氏談)

**●審査員の講評**

「行動バイアス（先入観による行動特性）を生徒が理解できるような工夫している」、「自分の癖、行動バイアスに気づかせることは金融教育でも重要であり、自らゲームを作製する意欲、姿勢が良い」と評価されました。



優秀賞



今井 一馬氏  
東京都  
武蔵村山市立第十小学校副校長



比留間 雄大氏  
東京都  
武蔵村山市立第十小学校教諭

受賞作品

規格外野菜の販売体験を通じた金融教育のスタート  
～「食品ロス」に対する総合的な学習の時間の取組～

作品概要

筆者らは、早い段階から金融教育が必要と考え、お金や商品の価値を理解させることや外部との関わりを生かす観点から、6年生の総合的な学習の時間を使って金融教育を実践。食品ロスを学習テーマとし、その概要を調べ、地域の農家の方から規格外野菜について学んだ後、小学校の夏祭りで規格外野菜の販売体験を行った。

**お金や商品の価値を小学校で学ぶ必要性**

児童による金銭的な問題行動（おごり、おごりれ等）の話を耳にするたびに、お金や商品の価値を理解させることが必要と考えたのが、この実践のきっかけです。

食品ロスを学習テーマとし、おいしく食べられる野菜でも規格外のため捨てられる現状に、児童は強い問題意識を持ちました。そして、働いてお金を得ることの大変さや、お店を開いて商品を企画する楽しさを味わってほしいと考え、学校の夏祭りで規格外野菜の販売体験を行いました。販売価格の設定などわからないことが多く、地元の農家さんに聞いたり、手作りレシピを添える工夫をしたりと、児童にとってお金の大切さを学ぶ貴重な機会になったと思います。

来年度は起業家教育プログラムと連携して、融資や商品開発の視点を加えながら、学習をより体系化していきます。そして、地域の町づくりが活性化する仕掛けを、学校から生み出していきたいと考えています。

(今井 一馬氏談)

**●審査員の講評**

「今日的な課題について、地域を巻き込み取り組んでいる」、「コロナ禍で活動制限されている中、学校全体で金融教育に取り組み、夏祭り企画から、町づくり学習への広がりを見せている」と評価されました。



久保田 萌海氏  
東京都  
武蔵村山市立第十小学校教諭

## 受賞作品

### 小学生がお金を稼ぐ!?

～お金の学習を通して生き方をより良くしよう～

#### 作品概要

小学5年生が、働く対価としてお金をもらう体験により、職業観や勤労観を高める取組みを紹介している。総合的な学習の時間を中心に、さまざまな教科の特性を横断してお金の学習を計画。児童が家庭科で学んだ手作りぞうきんや、体育で学んだダンスパフォーマンスなどでお金を稼ぐ販売会「きふフェス」を実践した。



優秀賞



高岡 政晴氏  
神奈川県  
横須賀市立夏島小学校教諭

#### お金を通して教科書で学べない経験をする

児童たちにお金の学びの実体験をさせたいと考え、目標を「自己の存在を実感し、将来の自分を見つめ、生き方をより良くする」として、家庭科で学習した手作りぞうきんやダンスパフォーマンスなどでお金を稼ぐ販売会「きふフェス」の実践にたどり着きました。販売前、児童たちは「手作りぞうきんなんか買ってくれるのかな」などと言っていました。実際には多くの方に買っていただきました。購入者アンケートの「みんなが元気よく販売していて好感を持っていた」を見た児童の「僕たちとのつながりでお金を出してもらった」という

発言を聞き、教科書では学べない経験をしたことで、お金の価値をモノの対価だけでとらえない考えを学べたと感じました。金融教育がさらに発展

していくためには、教員の意識を変える必要があると考えています。そのために、本実践授業を小学校の金融教育の一例として、さまざまな所で紹介し、広く発信していきたいと思えます。

#### ●審査員の講評

「稼ぐことを教えるのが一番難しいが、子ども目線でプロジェクトを作り、実践まで育て上げている」、「労働の喜びを実感させ、一つひとつの課題を次の課題につなげることに成功している」と評価されました。

#### 奨励賞 受賞者&作品 (敬称略)

■3年生総合学習『ゲームのお買い物学習 (ごっこ)』

山本 剛久 (東京都 葛飾区立清和小学校 教諭)

■ゲームフィクション教材を活用した金融経済教育の学習プログラム

小松 純 (東京都 東京都立清瀬高等学校 教諭)

■18歳成年として主体的に選択・判断できる力を育む公民科授業

——ポर्टフォリオ評価による生徒の学びの変わり——

長谷川 聡 (東京都 東京都立新宿高等学校 校主任教諭)

■支援学校における自立に向けての授業を通して

田村 富美 (和歌山県 和歌山県消費生活センター) / 和歌山県金融広報委員会金融広報アドバイザー  
池田 枝里子 (和歌山県 和歌山県立和歌山さくら支援学校高等部教諭)

今回の「第20回金融教育に関する実践報告コンクール」は、2023年6月ごろ募集予定です。

#### 審査員代表による講評



大杉 昭英氏  
早稲田大学  
非常勤講師

今回のコンクールでは、金融経済をさまざまな教科で取り上げ、医療保険制度や食品ロスといった社会課題について取り組んだ作品やゲームを使った作品、教科間連携、地域や外部講師との連携に取り組む意欲的な作品が目立ちました。受賞された皆さまの優れた作品が広く取り上げられ、金融教育への機運がより一層高まることを願っています。

#### ■第19回 最終審査員 (敬称略)

大杉 昭英	早稲田大学非常勤講師
向山 行雄	敬愛大学教授・教育学部長
神山 久美	山梨大学大学院教授
中村 新造	弁護士
瀧 俊雄	一般社団法人電子決済等代行業者協会 代表理事
山本 隆之	NHKメディア総局 第2制作センター 社会 ジャンル長
野見山 浩平	日本銀行情報サービス局参事役
武井 敏一	金融広報中央委員会会長